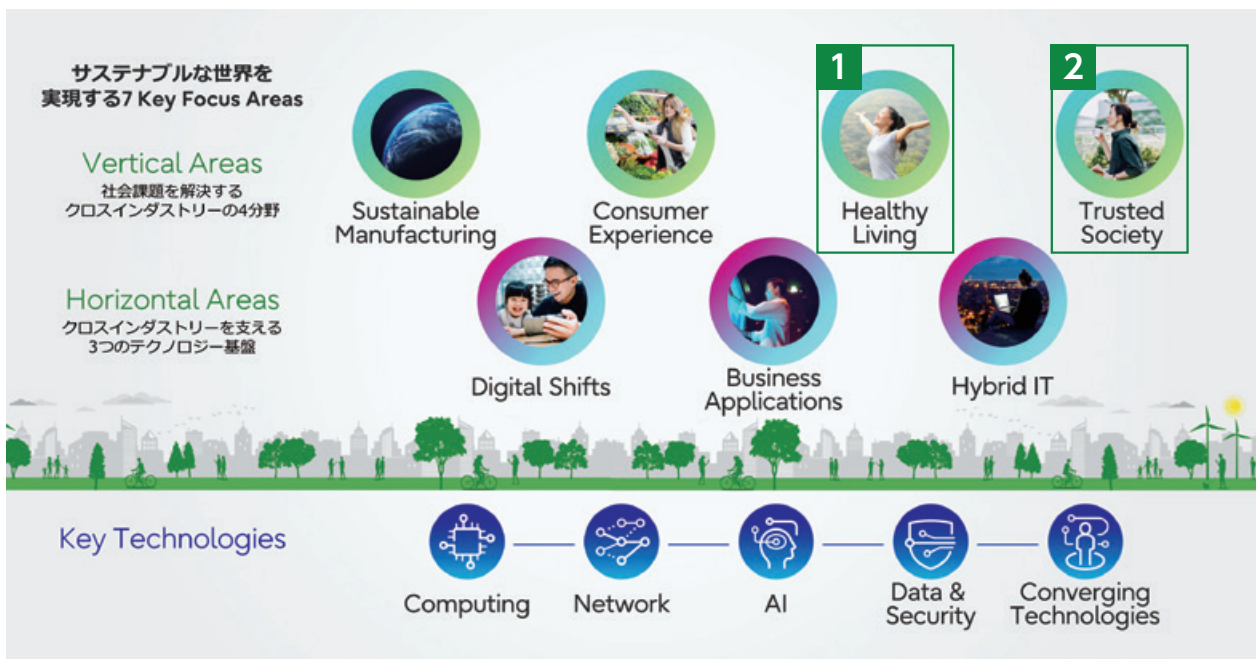


## サステナブルな世界を実現する「Fujitsu Uvance」

当社は、「多様な価値を信頼でつなぎ、変化に適応するしなやかさをもたらすことで、誰もが夢に向かって前進できるサステナブルな世界をつくること」を目指し、事業ブランド「Fujitsu Uvance」において、あるべき世界の実現に向けて解決すべき社会課題を起点に業種の垣根を越えた7つの重点分野（7 Key Focus Areas）を定め、ビジネスを推進しています。Fujitsu Uvanceを通じて、異なる強みを持つ企業をつなぎ、地球や社会をより良いものにしていくサステナビリティトランスフォーメーションに取り組んでいます。

詳細はこちら  
<https://www2.fujitsu.com/jp/uvance/>



2022年度上半期に公表した「Fujitsu Uvance」関連の取り組みを2つご紹介します。

### 1 「Healthy Living」(あらゆる人々のウェルビーイングな暮らしをサポート)

#### スーパーコンピュータ「富岳」とシミュレーション融合型AIを活用した次世代IT創薬技術の共同研究を開始

当社と国立研究開発法人理化学研究所（注1 以下、理研）は、創薬分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、創薬プロセスにおける新領域の開拓と開発期間や費用の劇的な削減を目指し、スーパーコンピュータ「富岳」（注2）を活用した次世代IT創薬技術の共同研究を2022年5月17日より開始しました。

本共同研究では、複雑なデータから定量的特徴を教師データなしで正確に獲得する当社のAI技術「DeepTwin（ディープツイン）」と、理研のAI創薬シミュレーション技術を適用した分子動力学シミュレーションなどを組み合わせたシミュレーション融合型AIを、ハイパフォーマンスコンピューティング（以下、HPC）技術と「富岳」を活用して効果的に動作させます。これにより、分子動力学シミュレーションの高精度化と高速化を図り、ターゲットとするタンパク質の構造の変化を広範囲に

予測する革新的な技術の確立を目指します。

両者は本研究をもとに、薬効の高さや副作用の少なさから期待が高まる中分子薬および高分子薬の開発において、標的タンパク質と抗体などの複合体解析や分子の大域的な構造変化を高速かつ高精度に予測できる世界トップレベルの次世代IT創薬技術を2026年度末までに開発します。本共同研究を通じて当社が強みをもつAIおよびHPCを組み合わせた技術開発を行うことで、医療分野における社会問題の解決に貢献するとともに、高度なコンピューティング技術とソフトウェア技術を誰もが容易に利用できるサービス群「Fujitsu Computing as a Service (CaaS)」の創薬分野でのユースケース創出に取り組んでいきます。

(注1) 国立研究開発法人理化学研究所：本部 埼玉県和光市、理事長 五神 真。  
 (注2) スーパーコンピュータ「富岳」：スーパーコンピュータ「京」の後継機として理化学研究所に設置された計算機。

詳細はこちら  
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/05/17.html>



### 2 「Trusted Society」(安心・安全でレジリエントな社会づくり)

#### 人の歩き方の映像から人物を高精度に照合できる新技術を開発

当社は、顔などの情報が写っていない映像からでも人の歩き方（以下、歩容）をもとに人物を高精度に照合できる歩容照合技術を開発しました。

本技術を用いて、例えば迷子や高齢者の捜索の際に、過去に保護者や家族がスマートフォンなどで撮影した対象者の歩容が分かる映像をもとに、駅や空港、商業施設、公共機関など様々な場所に設置された

カメラ映像から歩容の類似度が高い人物をAIが高精度に特定するなど、従来は人手で行っていた映像の解析作業を大幅に効率化するために様々な場面での実証に取り組み、実用化を進めています。

詳細はこちら  
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/07/22.html>

